

# 2024年3月期 決算説明会資料

栄研化学株式会社（証券コード：4549）

2024年5月9日

- 1. 2024年3月期決算概要**
- 2. 2025年3月期通期業績予想**
- 3. 当社を取り巻く環境の認識と施策**
- 4. 資本政策について**
- 5. 企業価値向上に繋がるサステナビリティの取り組み**
- 6. その他2024年3月期トピックス**

# 2024年3月期決算概要

# 2024年3月期決算概要

## 2024年3月期 エグゼクティブサマリー

### • 外部環境

- ✓ 国内における新型コロナウイルス感染症の指定感染症分類区分の変更 2類→5類
- ✓ 円安や原油高による物流及び原材料調達などのコスト上昇

### • 当社業績

- ✓ 海外向け売上高は便潜血検査、尿検査、および結核遺伝子検査（TB-LAMP）が好調に推移
- ✓ 新型コロナ遺伝子検査需要の減少により、関連試薬の売上が前年比で大きく減少
- ✓ 高利益品目である新型コロナ検査試薬の売上減少およびLAMP法の特許料収入の減少によるセールスマックスの変化、コスト上昇、将来基盤の研究開発を目的とした新研究棟の稼働に伴う減価償却費の増加などにより減益

### • その他

- ✓ 自己株式の取得および取得した全株式の消却を実施  
取得株式数：250万株、取得総額：4,636百万円、取得期間：2024年1月31日～2024年3月19日
- ✓ 当社初の統合報告書「栄研化学 統合報告書 2023」を公開

## 2024年3月期実績 前期比

新型コロナ検査試薬の需要の減少により売上高が大幅に減少  
セールスマックスの変化、減価償却費、販管費増により減益

	2023年3月期		2024年3月期		前年比	
	(百万円)	売上高比率	(百万円)	売上高比率	(百万円)	増減比率
売上高	43,271	100.0%	40,052	100.0%	△ 3,219	△ 7.4%
国内	34,474	79.7%	29,936	74.7%	△ 4,538	△ 13.2%
欧州	2,596	6.0%	3,929	9.8%	1,333	+51.3%
北米	2,019	4.7%	1,959	4.9%	△ 60	△ 3.0%
アジアオセアニアその他	4,181	9.7%	4,227	10.6%	46	+1.1%
売上原価	22,765	52.6%	23,328	58.2%	563	+2.5%
売上総利益	20,506	47.4%	16,723	41.8%	△ 3,783	△ 18.4%
販売費及び一般管理費	13,049	30.2%	13,345	33.2%	296	+2.3%
営業利益	7,457	17.3%	3,377	8.4%	△ 4,080	△ 54.7%
経常利益	7,568	17.5%	3,568	8.9%	△ 4,000	△ 52.8%
当期純利益	5,736	13.3%	2,634	6.6%	△ 3,102	△ 54.1%

## セグメント別決算 前期比

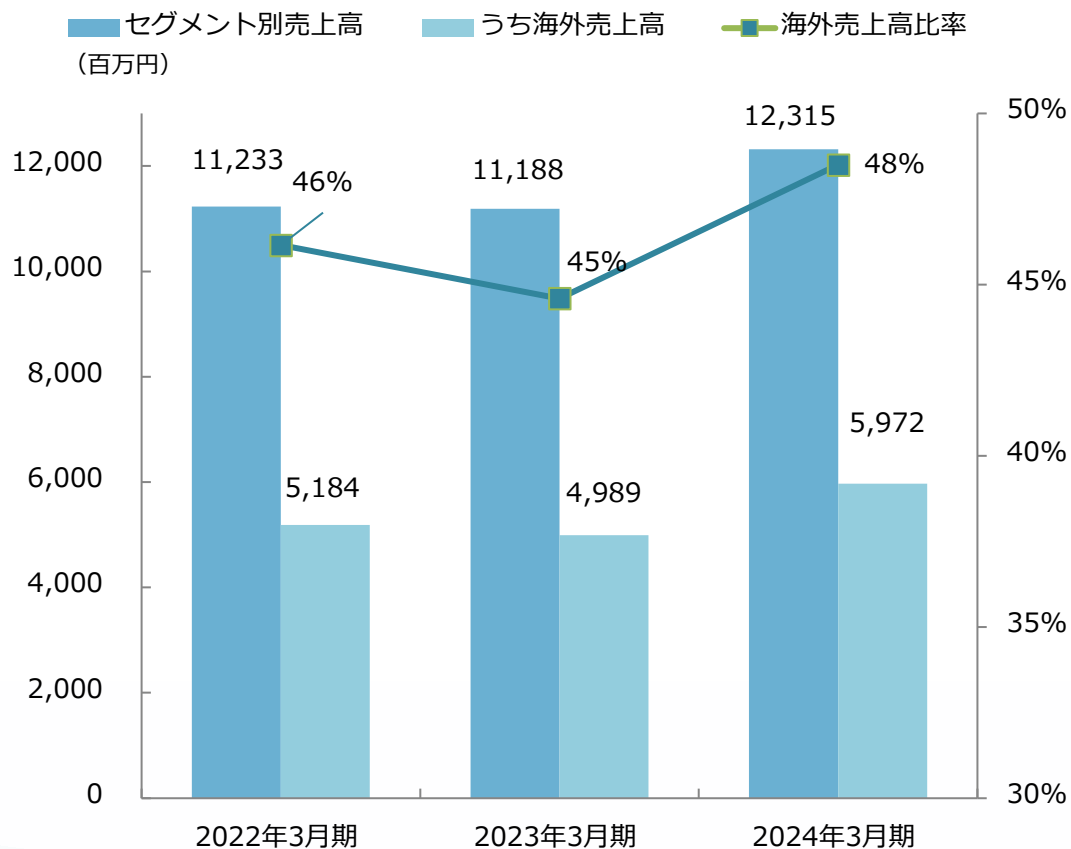
主力製品の便潜血が好調も遺伝子関連の売上が前期比で大幅に減少

	2023年3月期		2024年3月期		前年比	
	(百万円)	構成比	(百万円)	構成比	(百万円)	増減比
便潜血	11,188	25.9%	12,315	30.8%	1,127	+10.0%
免疫血清 (便潜血を除く)	9,529	22.0%	9,394	23.5%	△ 135	△1.4%
尿検査	4,143	9.6%	4,401	11.0%	258	+6.2%
微生物	3,938	9.1%	4,312	10.8%	374	+9.5%
生化学	590	1.4%	575	1.4%	△ 15	△2.5%
器具・食品環境	2,165	5.0%	1,961	4.9%	△ 204	△9.4%
遺伝子関連	7,343	17.0%	2,625	6.6%	△ 4,718	△64.2%
医療機器・その他	4,373	10.1%	4,464	11.2%	91	+2.1%
合計	43,271	100.0%	40,052	100.0%	△ 3,219	△7.4%

# セグメント別決算詳細①

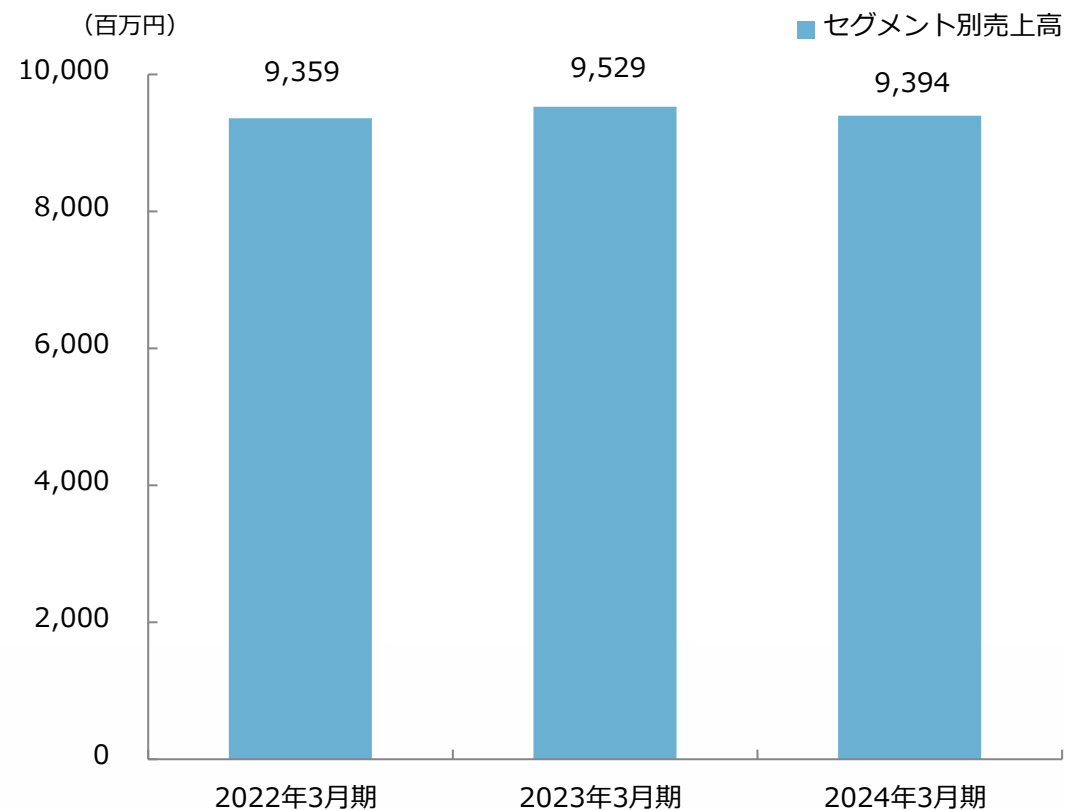
## 便潜血検査用試薬

### 国内外ともに順調に推移



## 免疫血清検査用試薬

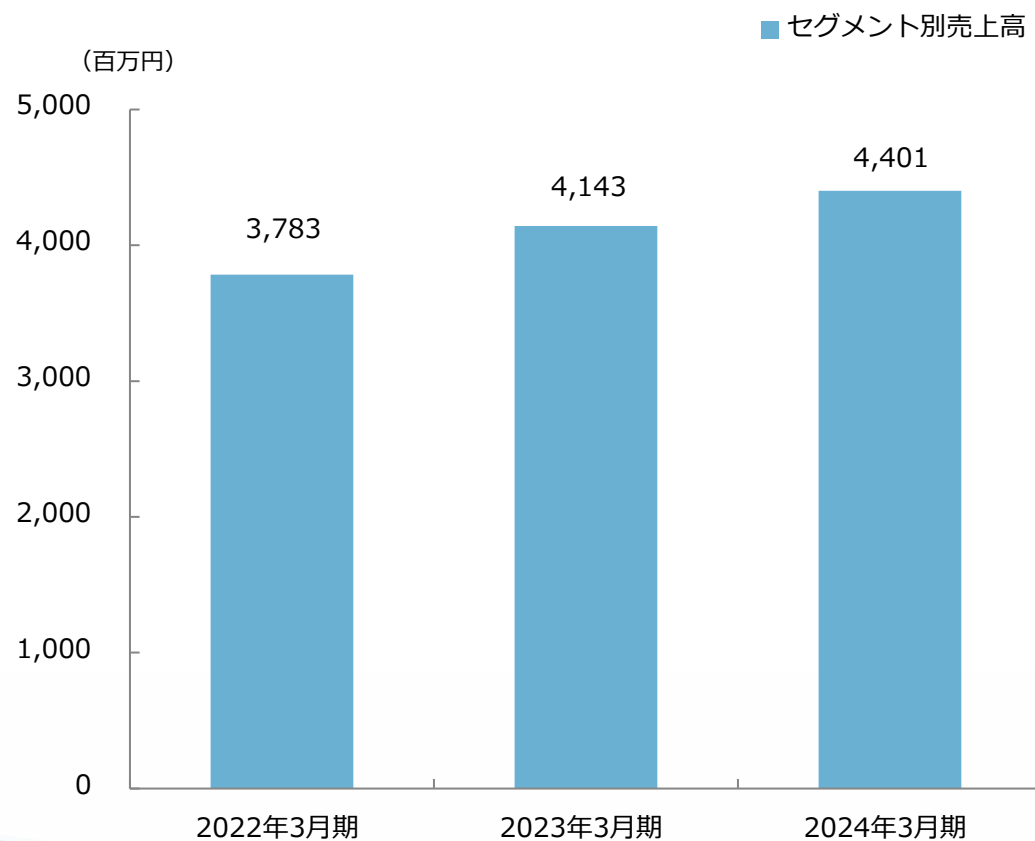
### 新型コロナの抗原、抗体検査数が減少



## セグメント別決算詳細②

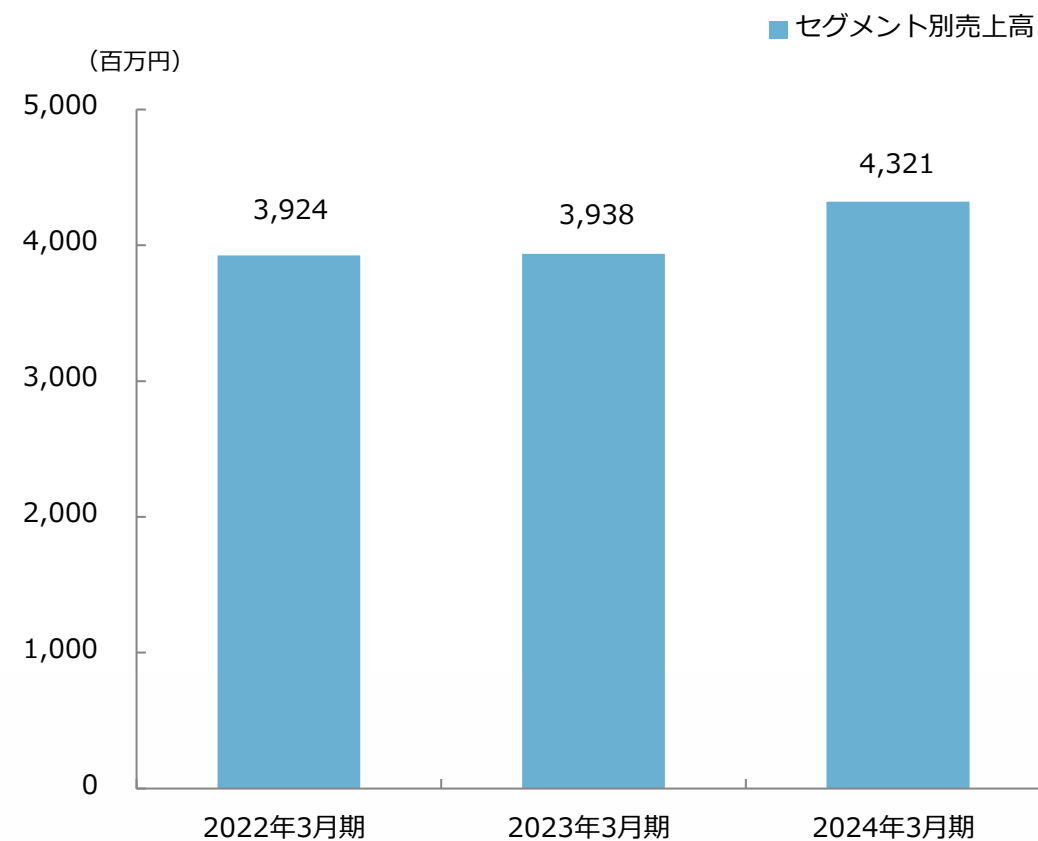
### 尿検査用試薬

#### 国内外ともに順調に推移



### 微生物検査用試薬

#### 新型コロナ以外の感染症関連製品の需要が増加

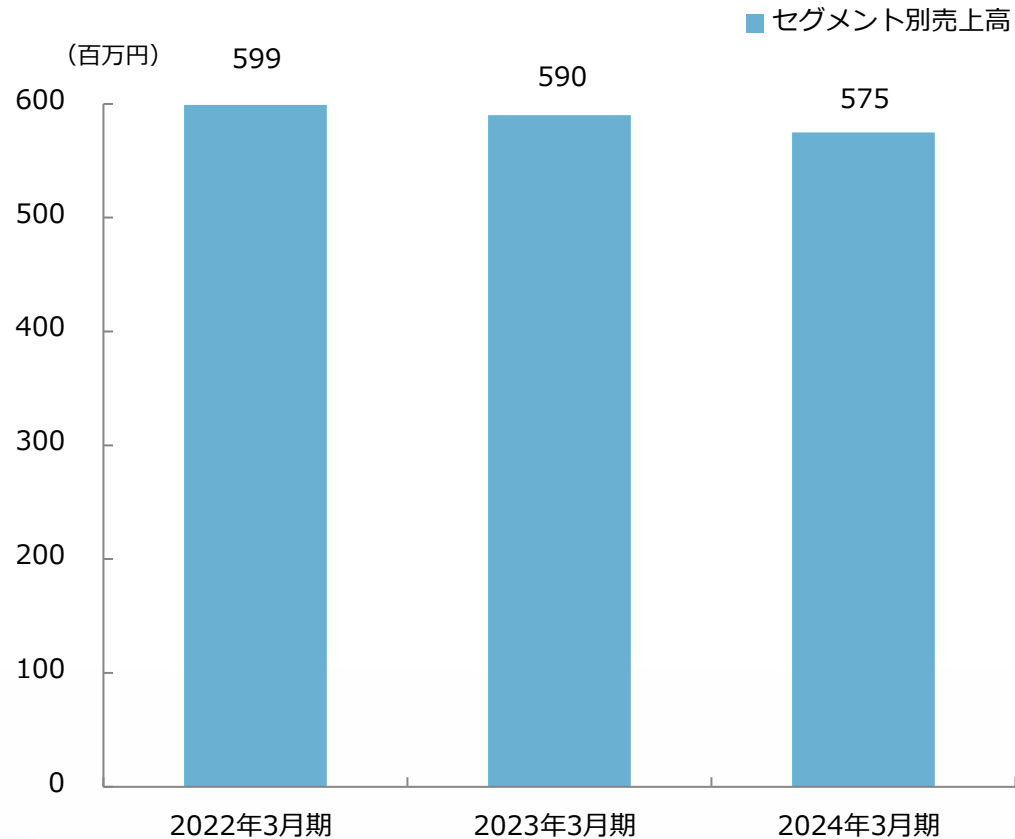




# セグメント別決算詳細③

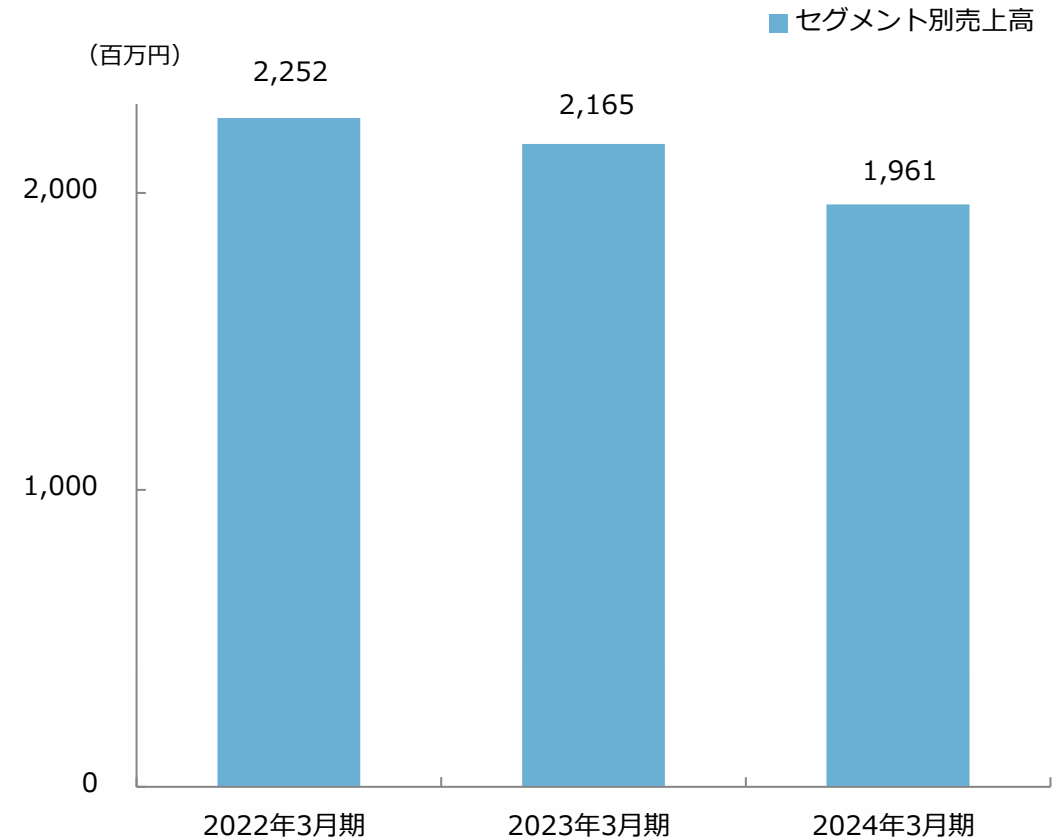
## 生化学検査用試薬

### 市場環境の厳しさにより売上減少



## 器具・食品環境関連培地

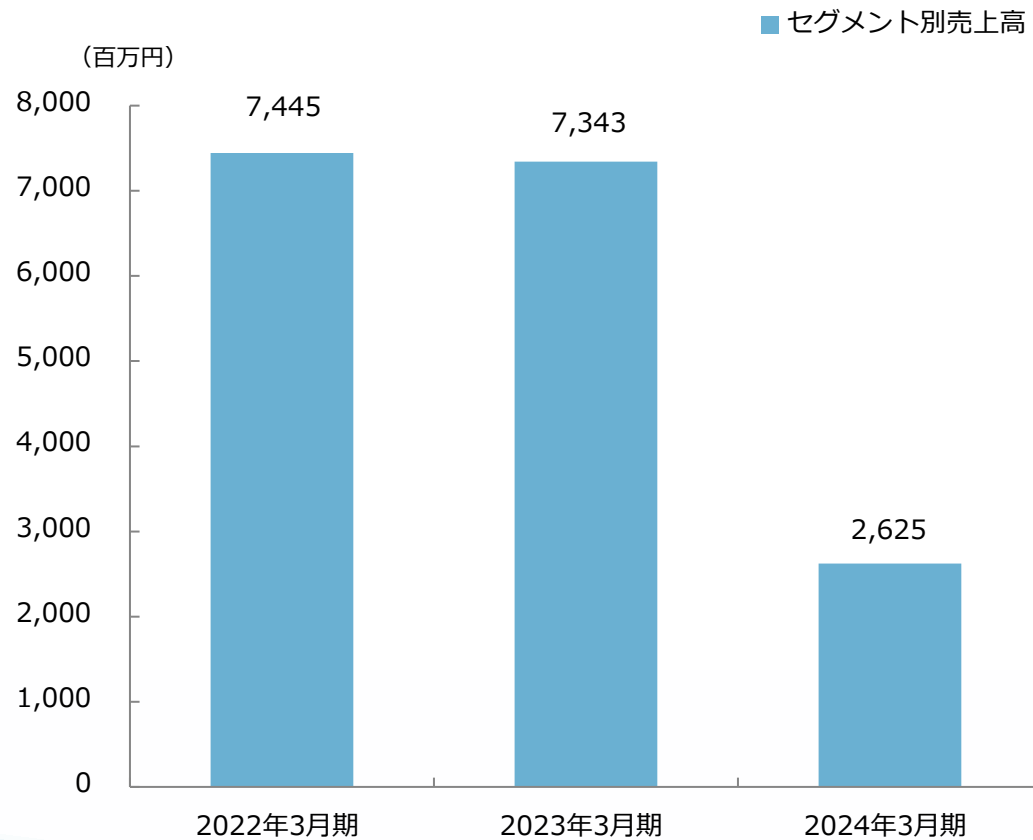
### 値上げの影響により減収するも採算性は改善



## セグメント別決算詳細④

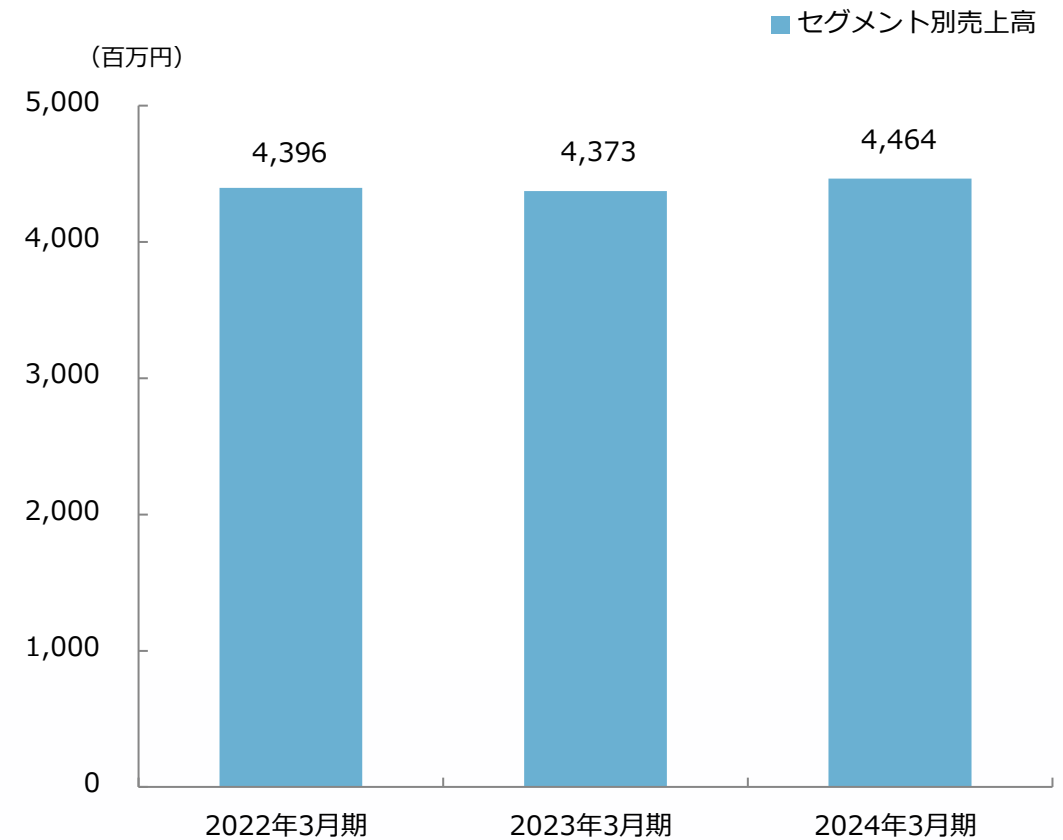
### 遺伝子関連

■ **新型コロナ検査試薬需要の大幅な減少、LAMP法特許主要国満了に伴う特許料収入の減少** 特許料：402百万円（前期1,554百万円）



### 医療機器・その他

■ **医療機器関係は現状維持**

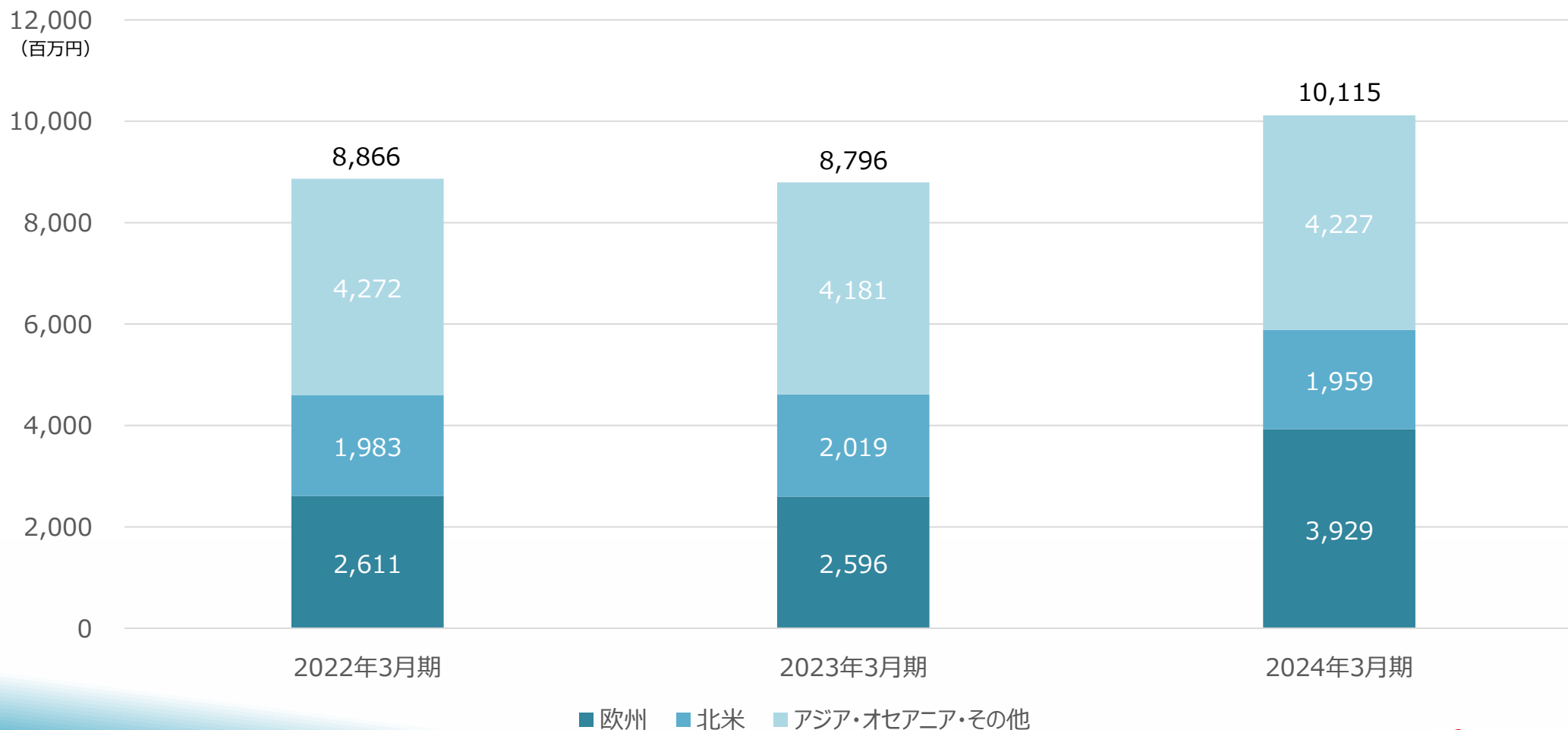


## 海外地域別業績

(欧州) 主要各国での大腸がんスクリーニングプログラムが順調に推移、ナイジェリアのTB-LAMP※1の大型採用

(北米) 便潜血の試薬は順調も測定装置の一時的な売上減少等により減収

(アジア・オセアニア・その他) 主要国での大腸がんスクリーニングプログラムが順調に推移、シスメックス向け尿検査試薬の売上※2が増加

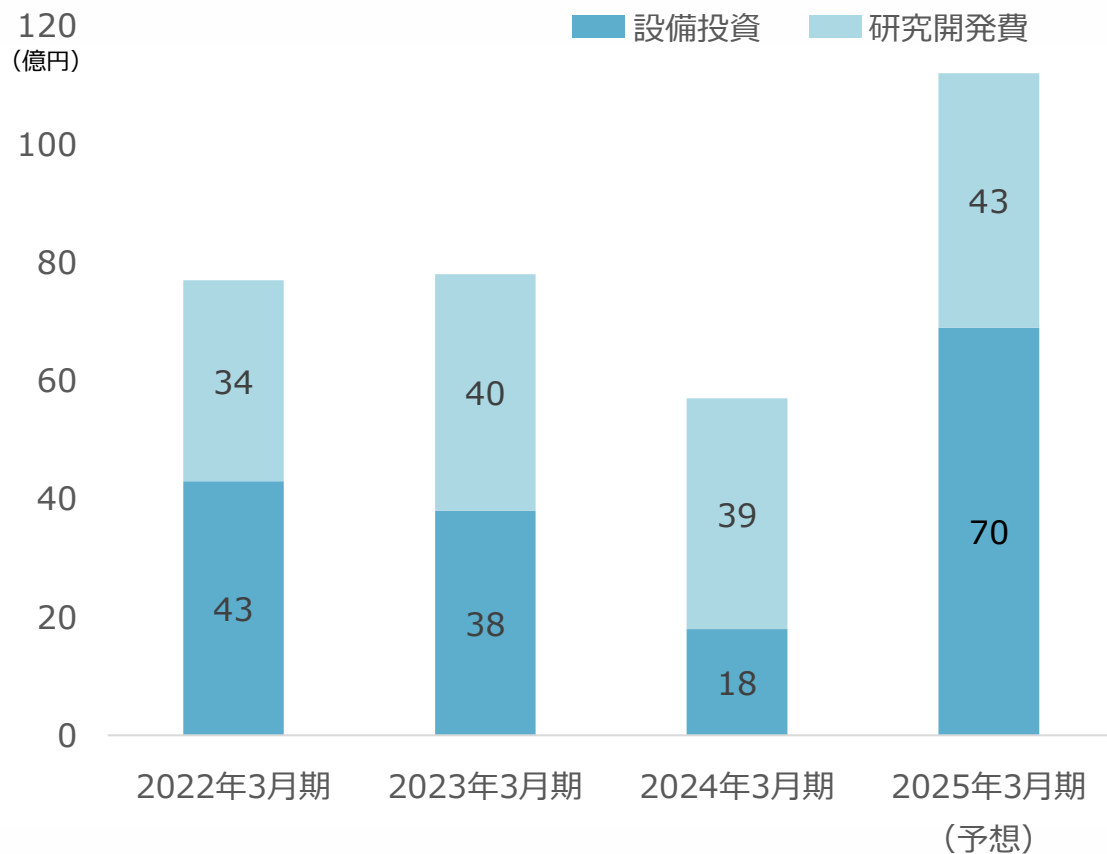


※1 開発途上国向けLAMP製品の売上は欧州（代理店）に含む

※2 海外向け尿検査用試薬（シスメックス(株)との提携）の売上はすべてアジア地域に含む

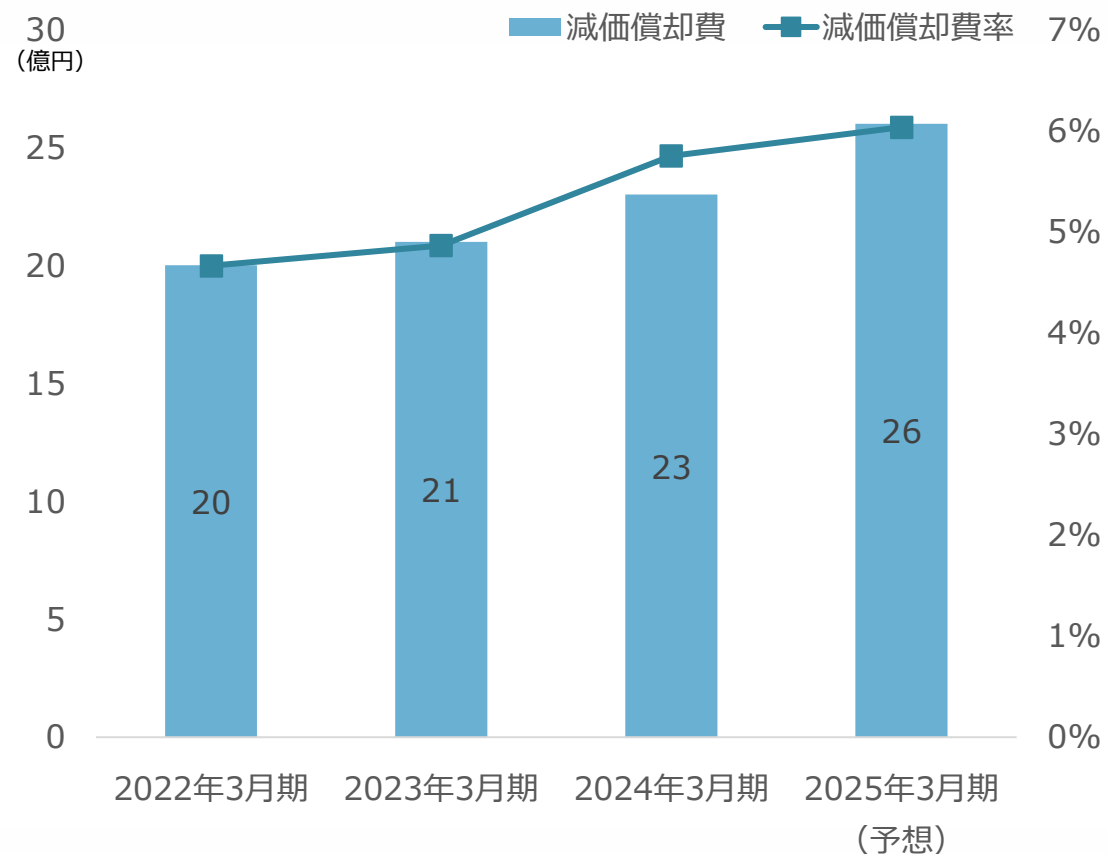
# 設備投資費・研究開発費・減価償却費

## 設備投資・研究開発費



2025年3月期 (予想)  
 設備投資：新製造棟建設 43億円  
 研究開発費：各種測定装置開発費 など

## 減価償却費



新研究棟の本格稼働 (2022年10月)

# 連結貸借対照表

	2023年3月期末 (百万円)	2024年3月期末 (百万円)	増減
現金および預金	18,317	16,308	△2,009
営業債権およびその他債権	11,122	12,482	1,359
その他の金融資産	0	0	0
棚卸資産	8,413	8,098	△314
その他の流動資産	1,370	971	△399
流動資産 計	39,217	37,851	△1,365
有形固定資産	17,202	17,005	△196
無形固定資産	1,054	792	△261
投資その他の資産	8,802	6,001	△2,800
固定資産 計	27,058	23,799	△3,258
資産 合計	66,275	61,651	△4,623

	2023年3月期末 (百万円)	2024年3月期末 (百万円)	増減
営業債務およびその他の債務	7,618	7,407	△1,092
その他の流動負債	4,823	3,943	△881
流動負債 計	12,443	11,351	△1,092
社債および借入金	3,000	3,000	-
その他の非流動負債	1,295	1,328	31
非流動負債 計	4,296	4,329	32
負債 合計	16,740	15,680	△1,059
資本金	6,897	6,897	-
資本剰余金	8,076	7,892	△183
利益剰余金	36,865	35,801	△1,064
自己株式	△3,095	△5,686	△2,590
その他の包括利益累計額	411	708	296
新株予約権	380	358	△22
純資産 合計	49,535	45,971	△3,564
負債および資本 合計	66,275	61,651	△4,623

## キャッシュ・フロー

(営業)売上債権増加△1,355、減価償却費+2,326、税金等調整前当期純利益+3,503

(投資)有形固定資産取得△1,976

(財務)自己株式買取△4,707、配当金支払△1,927

	2023年3月期 (百万円)	2024年3月期 (百万円)	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	7,575	3,806	△3,769
投資活動による キャッシュ・フロー	△316	△2,216	△1,899
財務活動による キャッシュ・フロー	△2,095	△6,694	△4,598
現金および現金同等物 期末残高	16,064	10,966	△5,098

# 2025年3月期 通期業績予想

## 2025年3月期 通期連結業績予想

コロナ影響はなくなり、通常の成長曲線にのる  
セールスマックスによる原価率の改善

	2024年3月期		2025年3月期 予想		前年比	
	(百万円)	売上高比率	(百万円)	売上高比率	(百万円)	増減比率
売上高	40,052	100.0%	43,100	100.0%	3,048	+7.6%
国内	29,936	74.7%	30,780	71.4%	843	+2.8%
欧州	3,929	9.8%	4,600	10.7%	670	+17.1%
北米	1,959	4.9%	2,610	6.1%	650	+33.2%
アジア・オセアニア・その他	4,227	10.6%	5,110	11.9%	882	+20.9%
売上原価	23,328	58.2%	23,460	54.4%	132	+0.6%
売上総利益	16,723	41.8%	19,640	45.6%	2,917	+17.4%
販売費及び一般管理費	13,345	33.3%	13,980	32.3%	635	+4.8%
営業利益	3,377	8.4%	5,660	13.1%	2,283	+67.6%
経常利益	3,568	8.9%	5,620	13.0%	2,052	+57.5%
当期純利益	2,634	6.6%	4,480	10.4%	1,846	+70.1%



## 2025年3月期 セグメント別予想

便潜血検査は海外各国における需要増、微生物検査はイムノクロマトの新製品の売上増、遺伝子検査は海外における結核菌群検出試薬キットの売上増をそれぞれ見込む

医療機器は機器更新のタイミングにより減収見込み

単位：百万円

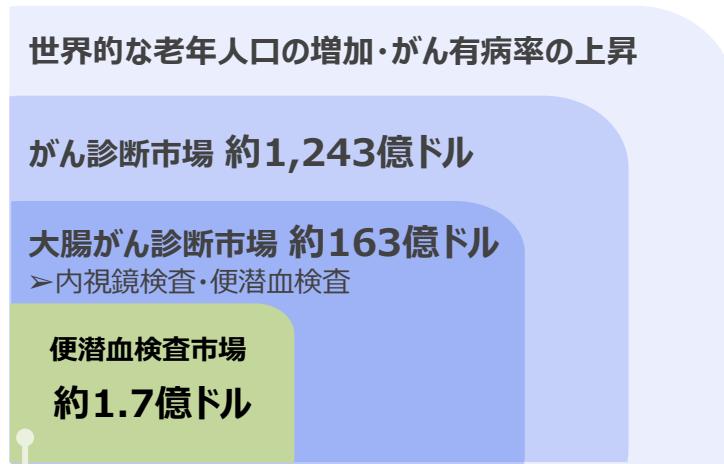
	2024年3月期		2025年3月期 予想		前年比	
		構成比		構成比		
便潜血	12,315	30.8%	14,800	34.3%	2,485	+20.1%
免疫血清 (便潜血を除く)	9,394	23.5%	10,245	23.8%	851	+8.9%
尿検査	4,401	11.0%	4,515	10.5%	114	+2.4%
微生物	4,312	10.8%	4,800	11.1%	488	+11.1%
生化学	575	1.4%	690	1.6%	115	+20.1%
器具・食品環境	1,961	4.9%	1,715	4.0%	△ 246	△12.5%
遺伝子関連	2,625	6.6%	2,860	6.6%	235	+9.0%
医療機器・その他	4,464	11.1%	3,475	8.1%	△ 989	△22.4%
合計	40,052	100.0%	43,100	100.0%	3,048	+7.4%

# 当社を取り巻く環境の認識と施策

# 便潜血検査市場におけるグローバル事業環境・市場成長見通し

便潜血検査（FIT）の実績・圧倒的シェアを活かし、国際標準化・新技術で付加価値を高め、新たな顧客を獲得

## がん診断関連の世界市場規模 ※



## 便潜血検査市場 拡大要因

- コロナによる非接触検査のFIT普及加速
- 内視鏡医師不足に伴う検査キャパシティ不足
- FITの医療経済性の高さへの評価
- 新興国における健診（検診）の重要性認識向上

## 拡大戦略

- 検診受診率の向上（新採便緩衝液※2）
- 検査精度の向上（新採便緩衝液・FIT+※3）
- 新規スクリーニングの獲得

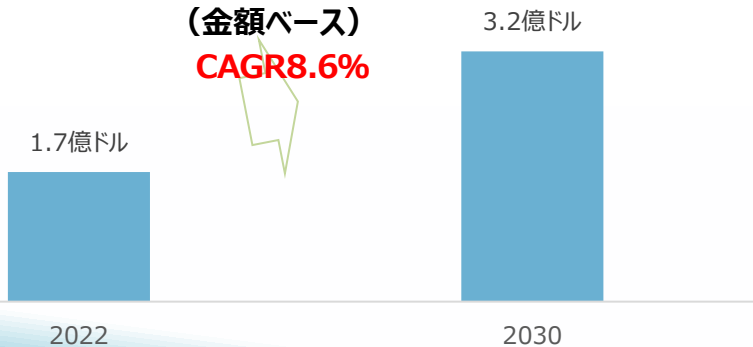
## 価値創造

- 大腸がんによる死亡リスク減少
- 早期治療による医療費の抑制
- QOLの向上・健康寿命の延伸

※2 P37参照

※3 FIT+：同じ採便容器の検体を用いた便中遺伝子検査による高精度な検査技術の開発

## 世界の便潜血検査市場 における成長見通し （金額ベース）



## 大腸がんスクリーニング検査FIT\*の展開国 現在46か国



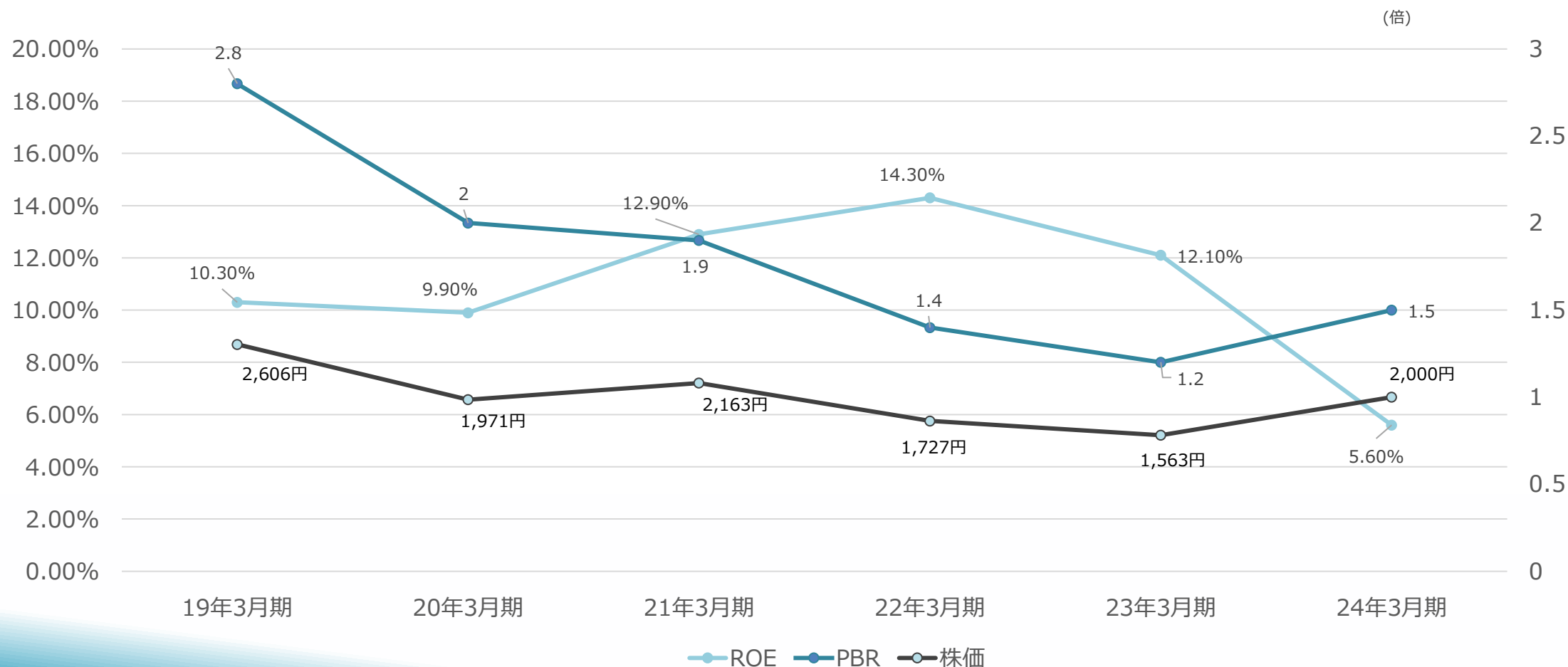
※ DataM Intelligence, Fortune Business Insights, 360iResearch社レポートFecal Occult Testing Market by Product (Guaiac FOB Stool Test, Immuno-FOB Agglutination Test, Immuno-FOB ELISA Test), End-User (Clinical Diagnostic Laboratories, Hospitals, Physicians' Office & Laboratories) - Global Forecast 2023-2030を元に当社作成

\* FIT: 免疫法便潜血検査

# 資本コストや株価を意識した経営の対応

当社ROEは前期まで8%以上を維持していたが、今期はセールスマックスの変化により利益減、5.6%の実績  
PBRが1%前半まで下落した現状を踏まえ、現状評価を行い改善に向けた方針、具体的な取り組み等について取締役会にて協議を実施

ROE・PBR・期末株価の年別推移



# 最終年度を迎える中期経営計画の進行状況

		22.3期実績		24.3期実績	25.3期目標
成長性	売上高	430億円	▶	400億円	431億円
	海外売上比率	20.6%		25.3%	28.6%
収益性	営業利益率	19.5%		8.4%	13.1%
資本効率性	ROE	14.3%		5.6%	9.5%

## 中期経営計画における現在の課題

- ① トップラインの拡大  
海外展開可能製品の拡充
- ② 資本収益性の改善  
製品数の多さとプロダクトミックスの改善  
新型コロナウイルス検出試薬に代わる高利益品目の開発、展開
- ③ 研究開発の効率性向上  
外部機関との提携、技術の獲得  
研究開発リソースの集中

## 最終年度・2026年度以降に向けて必要な取り組み

- ① 事業ポートフォリオと重点販促分野の見直し  
海外売上高比率を高めるための製品ポートフォリオの再構築  
集中的な研究開発投資
- ② 資本効率性改善に向けた施策の実施を検討  
機動的な自社株買いを検討  
余剰資金を用いたM&Aを検討  
キャッシュ・コンバージョン・サイクルの最適化
- ③ コーポレートガバナンスの見直し、IR/SR活動の強化  
業績連動報酬制度の見直し  
事業説明会など、中長期的な成長に向けたビジョンの発信

# 中長期経営課題

課題		
財務・資本収益性	事業戦略	ガバナンス体制
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 営業利益率の改善</li> <li>• 保守的なバランスシートの見直し</li> <li>• 内部留保の有効活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 持続的なトップラインの成長</li> <li>• 海外事業及び新製品の売上向上</li> <li>• 海外の直販体制の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 業績連動報酬制度の見直し</li> <li>• 規模の経済を活用しきれていない研究開発・設備投資</li> <li>• IR活動の強化</li> </ul>

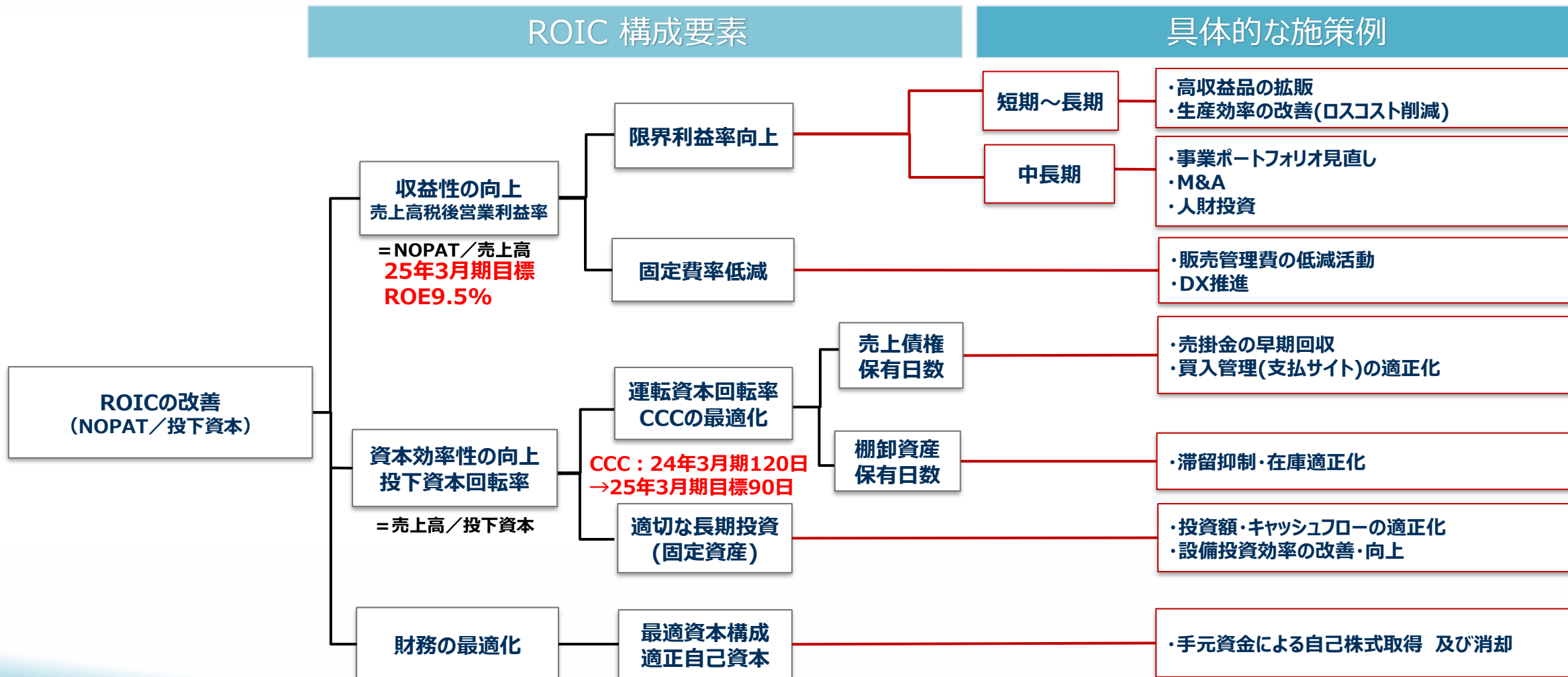
## 取り組みの方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>• 事業ポートフォリオの再構築、プロダクトミックスの改善</li> <li>• 余剰資金を用いたM&amp;A、技術獲得を検討</li> <li>• 資本コストを意識し、資本収益性改善施策の実行</li> <li>• キャッシュアロケーションを意識したバランスシートの見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 海外事業の開拓</li> <li>• 直販体制の検討</li> <li>• 事業ポートフォリオ戦略の見直し</li> <li>• 新製品開発への集中投資と体制強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 株価や中期業績目標と連動した役員報酬の検討</li> <li>• 投資規律の強化</li> <li>• 投資家へアピールできるIR資料の改善、中長期的な成長に向けたビジョンの発信</li> </ul>
---	---	---

# 資本政策について

# 資本収益性の向上

当社の財務健全性や事業成長性を総合的に判断した上で、「更なる企業価値の想像」を実現するため資本収益性並びに現状のバランスシートの改善に向けた資本政策を実行

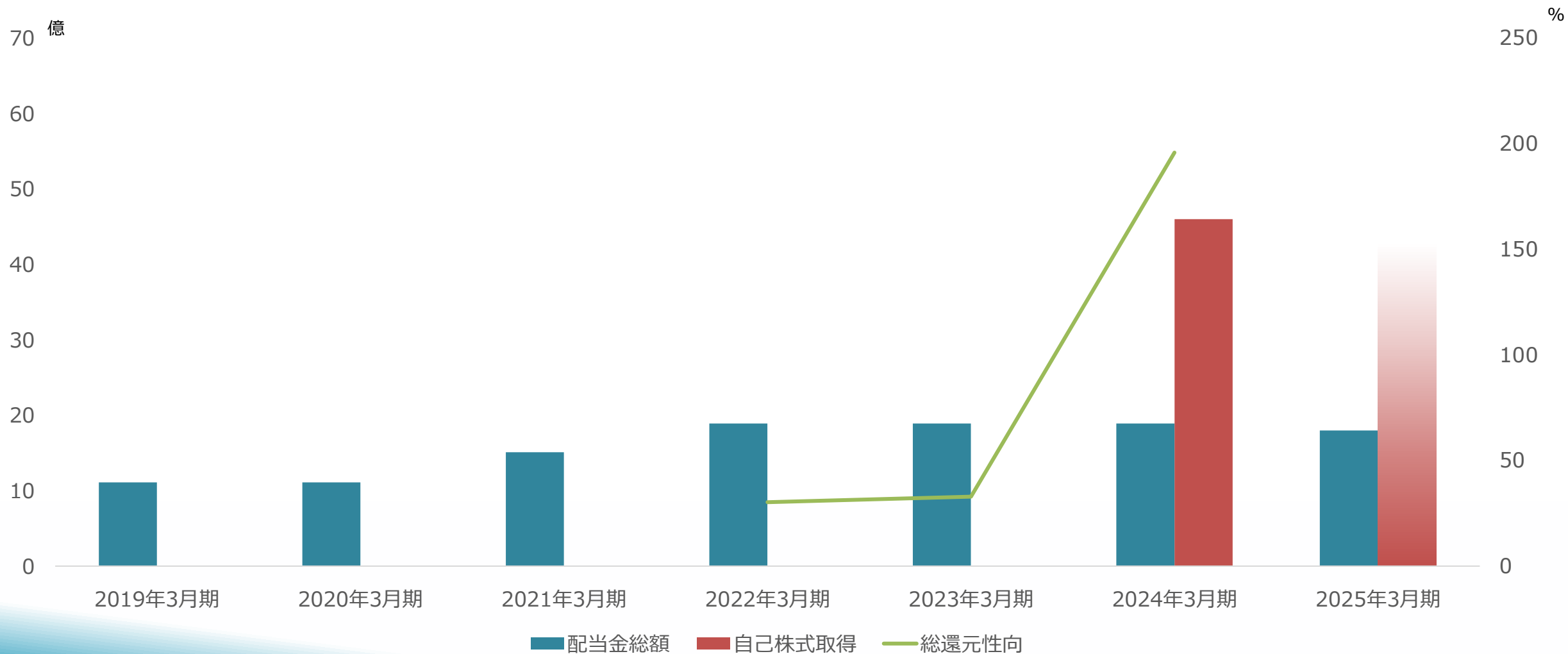




# 株主還元方針

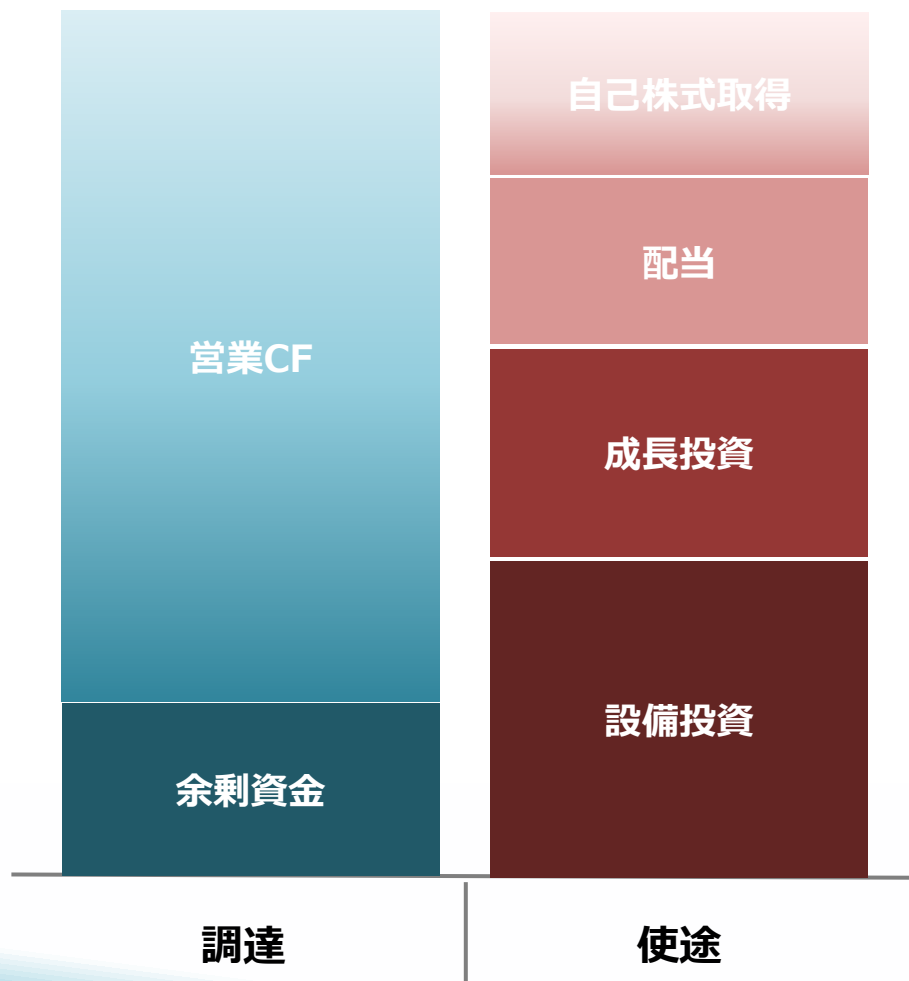
24年3月期の1株当たり配当金は51円。25年3月期の1株当たり配当金は53円、配当金総額は18億円、配当性向は40.9%を予想

24年3月期は自己株式取得を**合計46億円実施** 中期経営計画最終年度においても、株価や資本効率性指標の推移を踏まえ、機動的な自己株式取得を検討



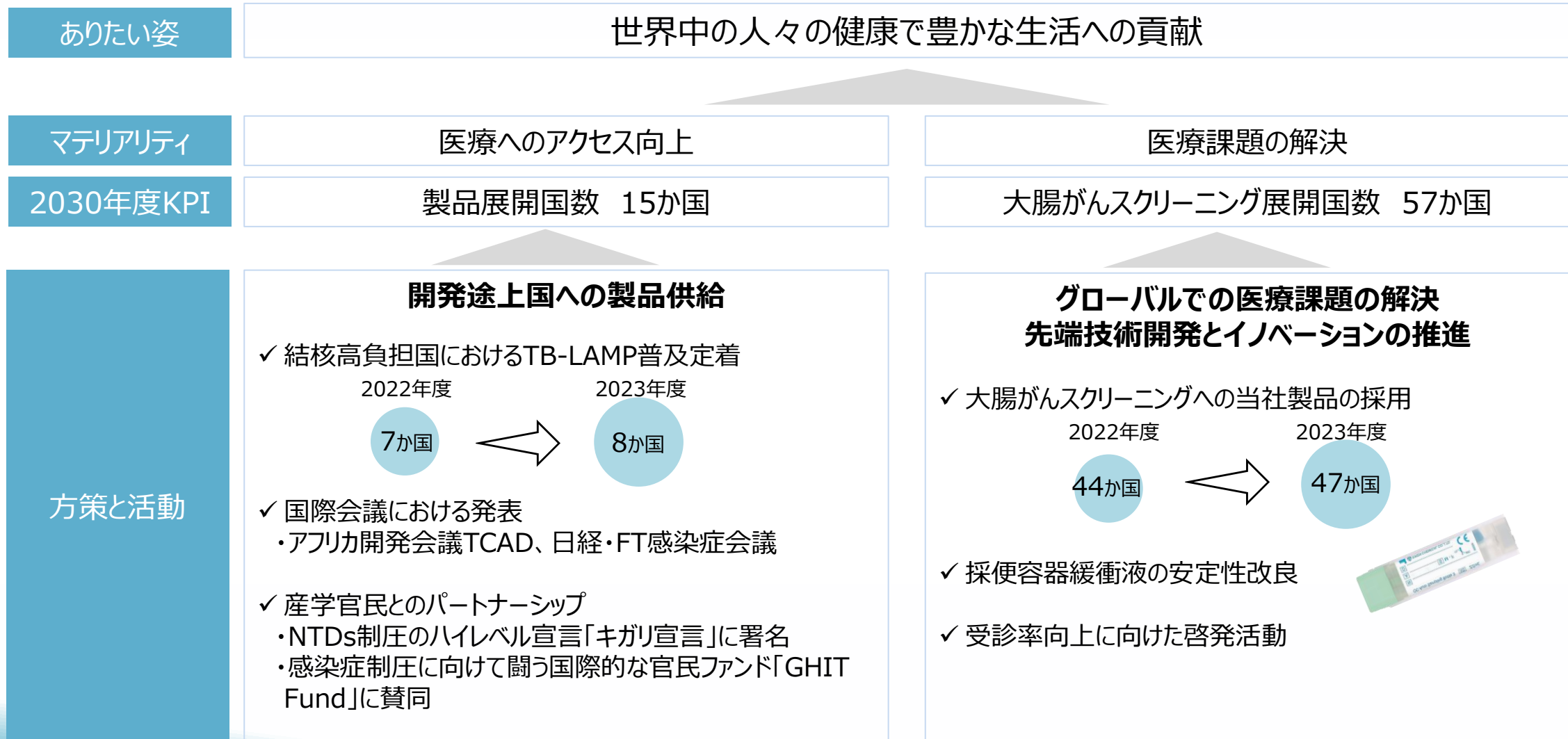
# キャッシュ・アロケーション

## 25年3月期におけるキャッシュ・アロケーション（予定）



使途	具体的な施策
株主還元	<ul style="list-style-type: none"> <li>株価や資本効率性指標の推移を踏まえ、機動的な自己株式取得を検討</li> <li>配当18億円（53円/株, 配当性向40.9%）</li> </ul>
成長投資	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究開発投資 等</li> </ul>
設備投資	<ul style="list-style-type: none"> <li>野木新製造棟建設へ総額65億円（今期支払予定額43億円）</li> <li>環境対策関連への設備投資</li> <li>海外拠点設立整備 等</li> </ul>

# 企業価値向上に繋がるサステナビリティの取り組み



# マテリアリティ 医療：具体的取り組み事例

## 誰一人取り残さない結核検査体制の実現

### ナイジェリアにおけるTB-LAMPの大規模採用

巡回健診による積極的結核患者スクリーニングプログラムへの貢献

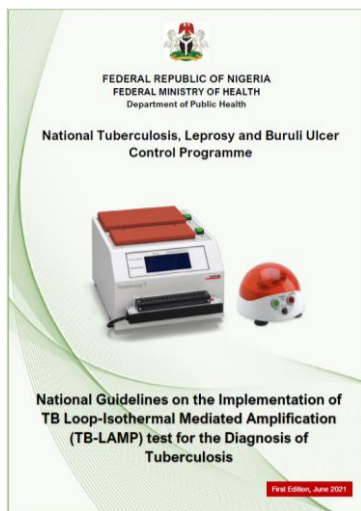
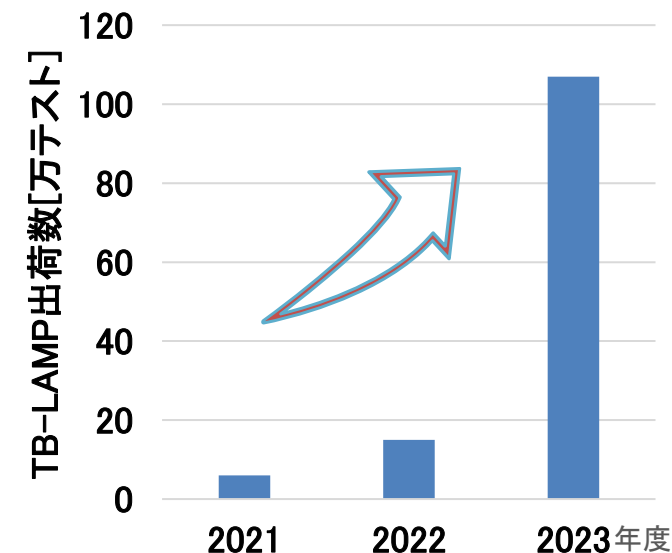


Photo Credit: KNCV Nigeria WoK team

従来プログラム：症状ベースで病院に来る患者のみを検査対象  
今回のプログラム：巡回健診による、見逃されている結核患者の発見



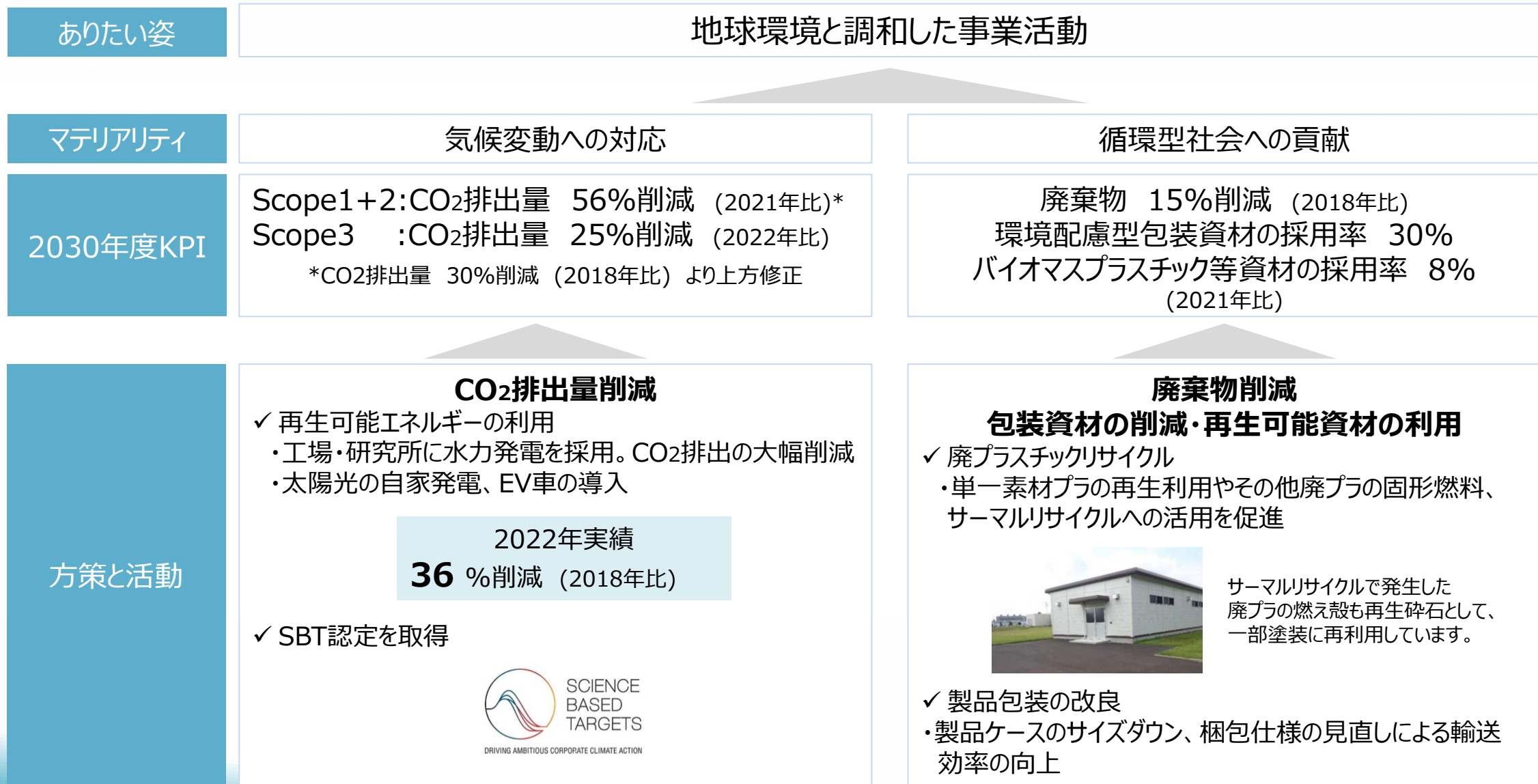
- ✓ ナイジェリアにおける継続採用
- ✓ 各国のグローバルファンド予算獲得への水平展開
- ✓ 世界的なNGOなどとの連携による更なるTB-LAMPの認知度向上・普及促進



**TB-LAMPとは**  
LAMP法を用いた開発途上国でも対応可能な結核の遺伝子検査システム。  
2016年にWHOの推奨を取得。

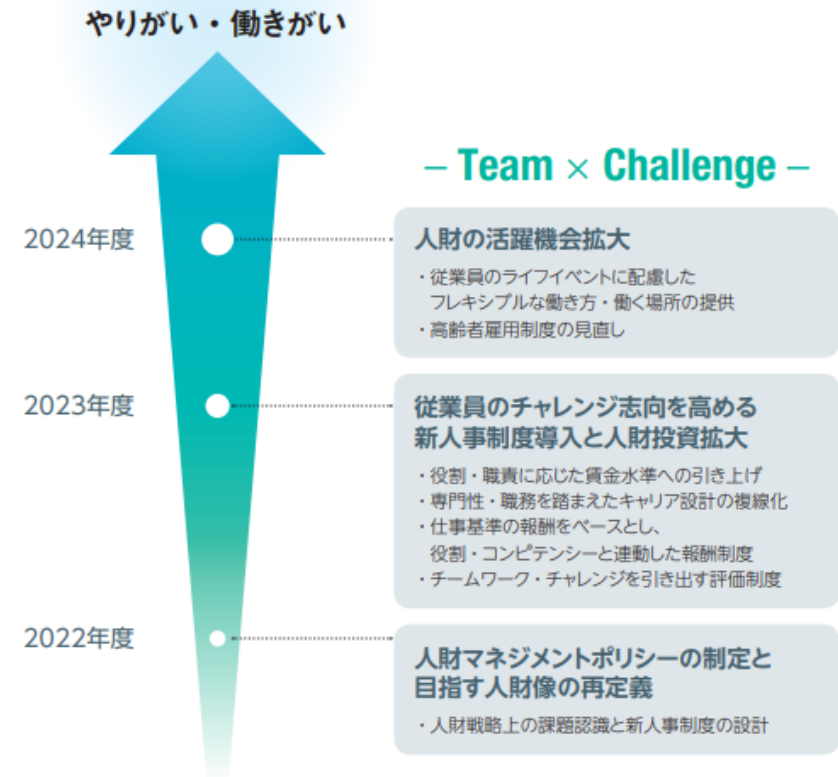
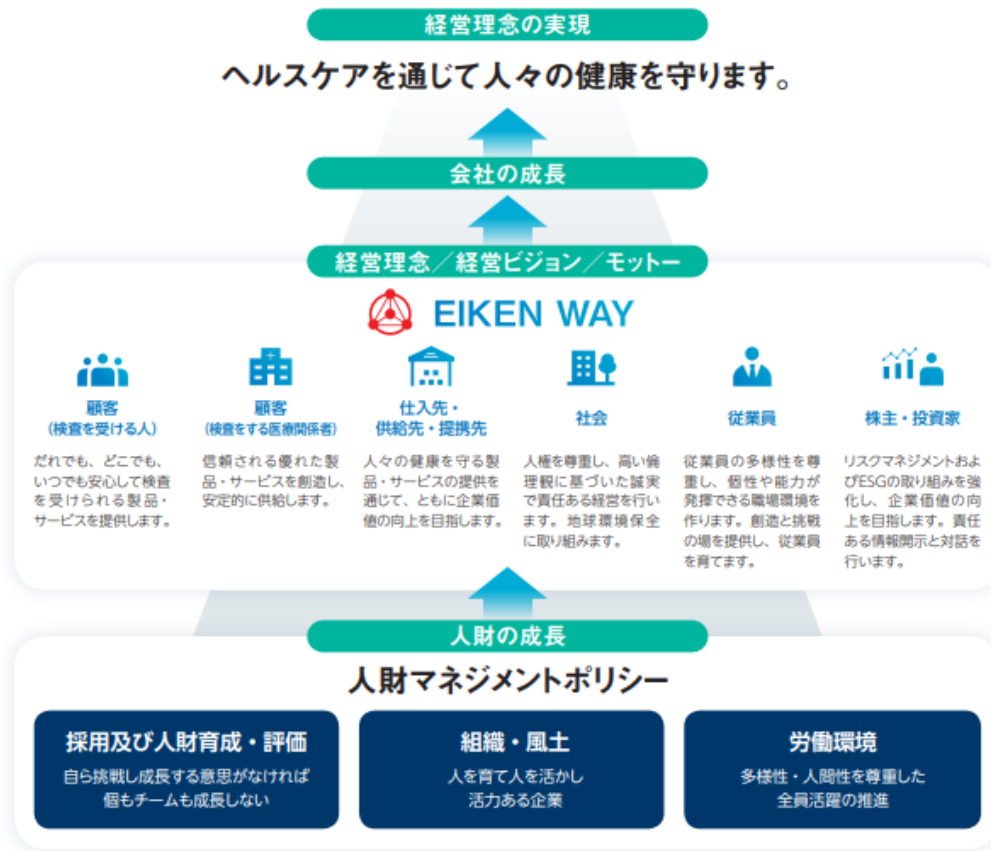
- ・高い感度と特異度
- ・低価格
- ・簡易かつ迅速に検査可能
- ・高い処理能力
- ・ロバストな設計





# マテリアリティ 社会：人財戦略

当社グループの未来は従業員が創り、従業員の可能性を広げることが会社の成長と社会への貢献に繋がるものと考えます。その方針のもと、当社グループは、「人を活かした活力ある 企業」を目指しています。多様性を尊重し受け入れ合える組織風土を育むとともに、従業員の安全と健康に十分配慮し、従業員が付加価値の高い業務に集中できる環境を整えています。また、すべての従業員が活躍を実感し、新たなイノベーションを創出する人財を育成しています。





## その他2024年3月期トピックス

1. 米国現地法人設立
2. 野木新製造棟建設
3. IR活動の強化
4. 新採便緩衝液の上市
5. コンパニオン診断システム（受託検査） 申請中
6. 新製品紹介 「イムノキャッチ<sup>®</sup> – Strep A」  
「イムノキャッチ<sup>®</sup> – Adeno」
7. 社外からの評価およびイニシアチブの参加



# 米国現地法人設立▶概要

## McAllister Plaza

9601 McAllister Freeway,  
San Antonio, TX



会社名	EIKEN MEDICAL AMERICA INC.
事業年度末日	3月31日
州外法人事業登録対象州	テキサス州
会社住所	9601 McAllister Freeway, San Antonio, TX McAllister Plaza
設立日	2023年11月1日

### 既存事業 (代理店経由)

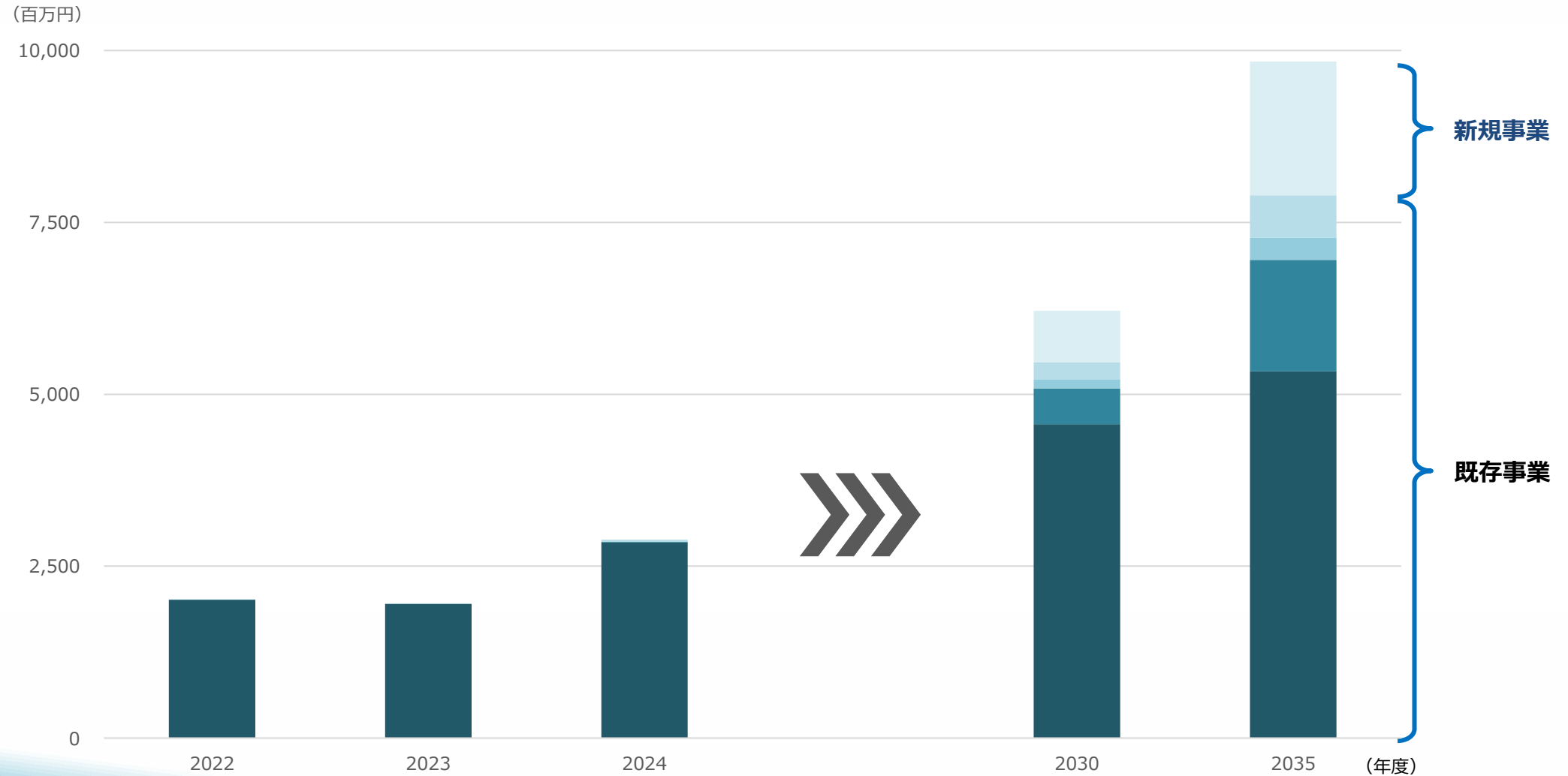
- \* FIT、カルプロテクチン (検診、臨床)
- \* 受診率向上
  - 内視鏡トリアージ、モバイル検診
  - 南米への水平展開

### 拠点活動

- \* 既存事業 (FIT、カルプロテクチン) の加速
  - ロビーイング強化と潜在市場掘り起こし
- \* 新製品展開 (マーケティング、臨床開発、プロモーション)
  - PAHO (汎米保健機構) 活用とグローバルヘルス事業展開
  - 事業ドメインの拡大 (動物・デジタルヘルス)

# 米国現地法人設立 ▶ 成長目標

売上高に関して、直近の実績は約20億円 既存事業のFIT、カルプロテクチンや受診率の向上を図り新製品を展開することで2030年度に58億円、2035年度に約100億円を成長目標とする



※ABC：胃がんリスク層別化検査（ABC分類）

# 野木事業所新製造棟建設

FITグローバル展開の加速、それに伴う大幅な生産数量の増加予想に対する生産スペースの確保、免疫血清検査用試薬の生産拠点を栃木県野木工場へ統合するため、新製造棟の建設を決定 2025年6月竣工予定 設備投資額65億円

課題項目	概要	解決すべき具体的内容
スペース	新製品・改良品の上市 設備更新 生産体制	<ul style="list-style-type: none"><li>• FITグローバル展開の加速、それに伴う大幅な生産数量の増加が見込まれ、那須工場の生産スペースが不足する予測</li></ul>
設備	試験の重複 出荷倉庫への輸送リードタイム	<ul style="list-style-type: none"><li>• 自社製品製造原価率改善</li><li>• 同一原材料でも各工場試験設備、保管スペースなど重複</li><li>• 工場間の試験委託も発生那須工場は出荷倉庫である商品管理部(野木)への製品輸送が発生</li><li>• リードタイムも1週間程度必要なため安全在庫が1週間分多い</li></ul>
組織	工場組織の重複 設計移管の煩雑化	<ul style="list-style-type: none"><li>• 1人あたりの生産金額の向上</li><li>• 労働力不足が見込まれる将来、組織機能面でも重複するスタッフ業務を、統合・DX化を進めることでスリム化を図る</li><li>• 野木事業所に統合した研究部門と連携を強め、設計移管のスピードアップを図る</li></ul>

# IR活動の強化

## ① アナリスト・機関投資家向け決算説明会の強化

- 説明会資料の充実（投資家が必要とする定量情報、資本コストと株価を意識した経営の見える化）
- マネジメントによる力強い発信
- アーカイブ動画の配信による株主・個人投資家へのフェアディスクロージャー体制の強化

## ② 投資家面談の継続

- 国内外主要株主へ成長戦略の説明および理解獲得
- 23年3月期の個別面談実施回数は、年102回

## ③ IRミーティングなどで得られた意見の取締役会に報告（年2回）、レビュー実施

- 投資家との対話促進に活かす

## ④ 非財務情報の積極開示、英訳対応の拡充等による情報開示の充実

- 株主資本コストの引き下げを図る



決算説明会（年2回 本決算、第2四半期）  
対面+ライブ配信、アーカイブ動画配信

# 便潜血検査 検査精度・検診受診率の向上 新採便緩衝液の上市 (2024年2月)

これまでに蓄積されたノウハウと新たに発明した技術を応用し、ヘモグロビンの安定性を向上させ、さらに組成の工夫によりカルプロテクチンの安定化も実現



新採便緩衝液により  
ヘモグロビンの安定性を向上

更なる検査精度の向上  
郵送大腸がん検診の拡大

国内でも郵送検診のハードルが下がり受診率アップにつながると期待

大腸がん検診受診率 (国内)

現在 約45%<sup>※1</sup>



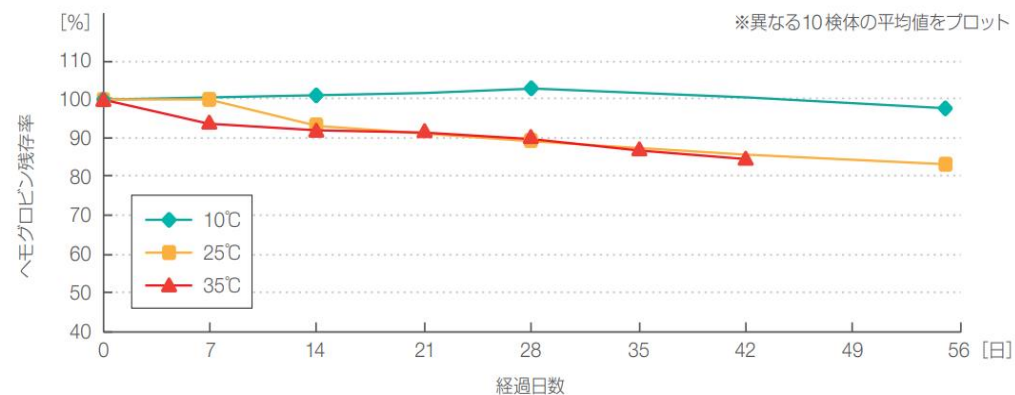
国の目標 (2028年までに) **60%**<sup>※2</sup>

※1 国民生活基礎調査による推計値より

※2 厚生労働省がん対策推進基本計画 (第4期) より

## 検体保存安定性 (社内データ)

●ヘモグロビン(便潜血)



## 次世代シーケンサーを用いた多遺伝子変異検索システム …コンパニオン診断システム (Mutation Investigator using the Next-era Sequencer : MINtS)

薬事申請中  
受託検査として上市を予定

### 【特長】

- 肺がんにおける複数遺伝子異常の一括検出・薬剤選択が可能
- 組織だけでなく、**細胞診検体**でも検査可能 (結果報告までが早い)
- 高感度 (必要検体量が少ない)

### 【発展】

- 新たな分子標的薬に対応した標的遺伝子の追加
- 適応可能ながん種の拡大
- リキッドバイオプシー対応



### 【展開プラン】

NEJSG\*参加施設を中心に先進医療を実施済 (20施設)

➡ その他NEJSG参加施設 (約200施設) に拡販

\*NEJSG: 認定特定非営利活動法人 North East Japan Study Group

### 受託検査事業の意義

- ・独自のがん遺伝子検査の推進
- ・常に、新しい検査 (製品) を市場投入・検討し続ける場



# 新製品紹介 「イムノキャッチ® - Strep A」 「イムノキャッチ® - Adeno」

## A群ベータ溶血性連鎖球菌（ストレプトA）抗原、アデノウイルスを簡易キットで短時間検出



イムノキャッチ® - Strep A

検査現場のために

- 抽出操作は簡便ワンステップ

患者様のために

- 1回の検体採取で『ストレプトAとアデノウイルス』2つの検査を行うことができます
- 痛みの少ないスポンジスワブ®を採用

国内の発生状況

- 2023年度は過去10年で最多の感染状況

イムノキャッチ® シリーズ充実

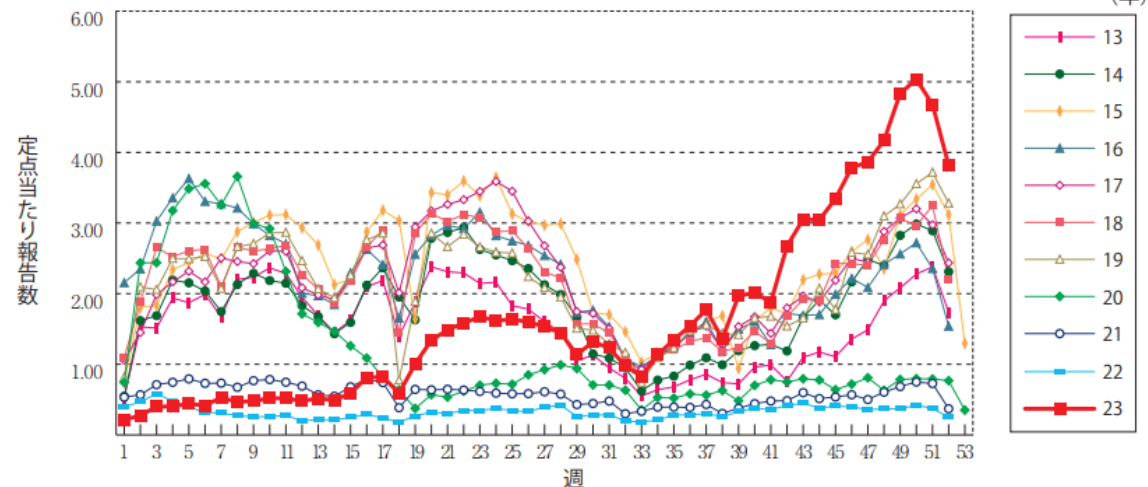
- イムノキャッチ® -Strep A
- イムノキャッチ® -Adeno
- イムノキャッチ® -肺炎球菌
- イムノキャッチ® -レジオネラ
- イムノキャッチ® -肺炎球菌 / レジオネラ
- イムノキャッチ® -RSV
- イムノキャッチ® -ノコ Plus



イムノキャッチ® - Adeno



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



# 社外からの評価およびイニシアチブへの参加等

## ESGインデックスへの組み入れ

- FTSE Blossom Japan Sector Relative Index
- S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数
- Morningstar Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Index



FTSE Blossom  
Japan Sector  
Relative Index



## イニシアチブへの賛同・署名／第三者評価・認証

### M (医療)



顧みられない熱帯病 (NTDs) 制圧の  
ハイレベル宣言「キガリ宣言」に署名

パートナーシップで感染症と闘う



Global Health Innovative Technology Fund

感染症制圧に向けて闘う国際的な  
官民ファンド「GHIT Fund」に賛同

### E (環境)



2023年2月TCFD提言に賛同・開示



DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

2024年2月SBT認定



「気候変動」Bスコア

### S (社会)



2024  
健康経営優良法人  
Health and productivity

5年連続認定

### G (ガバナンス)



レジリエンス認証  
事業継続および社会貢献  
認証-登録番号 E0000044

内閣官房国土強靱化室より  
国土強靱化貢献団体として認証

## 【参考URL】

サステナビリティサイト：<https://www.eiken.co.jp/sustainability/>

「栄研化学 統合報告書 2023」：<https://www.eiken.co.jp/ir/integrated>



# Saving Your Health

世界的な臨床検査薬企業として、人々の健康を守り続ける

本資料は、金融商品取引上のディスクロージャー資料ではなく、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載されている将来の予想等については、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、今後様々な要因によって予想と異なる場合があります。

本資料は、一切の投資勧誘またはそれに類する行為を目的として作成されたものではありません。

当社は、本資料の利用により生じたいかなる損害に対しても、一切責任を負いかねます。